

公園をみる・観る

= バトンタッチは大丈夫 =

秋雨前線の間を狙ったかのように顔を覗かせた青空の下、公園の秋への準備状況を伺いに出かけた。日差しはやわらかく風のほとんどない絶好の散策日和であった。頭上に広がる空は青く明るく薄いすじ雲が秋の風景を描き始めているが、遠い峰々を見ると入道雲たちが夏の思い出を語り合っていた。



中央園路をあるいていくとシャリンバイやハマヒサカキの実が稔り始め、ツグミやメジロたちのご馳走の準備は進んでいる。トベラもふっくらとまあるい実を付けている。やがて中から赤い粘液に絡まれた種子がはじけ出すが、これは独特の臭さが原因かトリたちにもあまり好まれない。

中央園路を進むにつれて、景色がなんだか茶色っぽく見え始めた。木々の葉が枯れ葉となって根元に散り積もり、枯れ木といっても過言でない木や、葉は付けていながらも全身褐色に染まった木がここに見える。特に観察展望棟周囲は枯れ模様がひどく、晴れ渡った初秋の風景の中で木々たちの日に焼けた姿がとても痛々しかった。今夏はかつて例のない程の暑い日が続き雨が降らなかったため、木々たちにも大きなダメージをもたらしたようだ。公園の対策としては「秋になって涼しくなり降水量も適度になったら蘇生するかもしれないので、しばらくこのまま様子を見ることにしている」とのこと。本当に今年の夏は猛暑だった。特にお盆前後の数日は35度超えの日々が続き、私たち人間も大いに悩まされたものだった。公園の樹木は環境に強い適応性を持つものが選ばれたと聞くと、それでもこんな有様になってしまうほどの過酷な気象だったのだ。これから秋の恵みを吸収してしっかり蘇生して欲しい。

土路石川側のクリーク沿いには芙蓉も咲いている。初秋の日を浴びて嬌然と咲くこの花に今年もまた見とれそうだ。一輪一日の命、まさに美人薄命の花だから。

ヤマハギがちらほら花を開き、最盛期には淡水池はヤマハギの紅色でふちどられる。淡水池には秋の定番カモ類たちも姿を見せ始めた。この夏、子育てにいろいろ苦勞をしたカイツブリも今日は子どもたちと楽しそうに戯れている。

ビジターセンターまで帰ると大きなアカテガニがはさみを振り振りゆっくりお出迎え。「まだ、冬眠にはちょっと早いね。いまの間にたくさん餌を食べておくのよ。冬眠に備えて」と話しかけた。どこかでツクツクボウシの声がする。夏と秋の混在するいま、季節のバトンタッチはスムーズにすすんでいるらしい。

そうそう、今夏は珍獣？も来園した。その名は、ヤドン、ポッポ、コダックなどだって。いずれも流行のスマホゲーム「ポケモンGO」のなかの生き物(?)らしいが、あまり名まえを聞いたことがないなあ。きららドームにはメジャーなポケモンも出現すると聞くと、(土×土)